

「生物学」研究の未来を拓く！

-日本動物学会中部支部大会-

◇期 日 令和元年 12 月7日(土)・8日(日)

◇場 所 金沢市文化ホール(石川県金沢市)

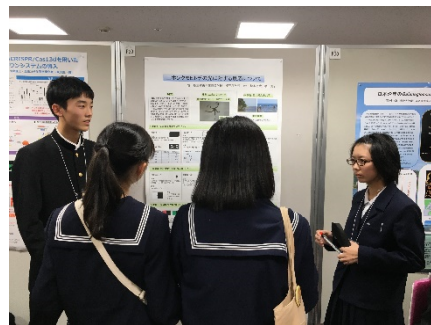
◇参加者 SS 生物部 草野剛志(21H)・白川恵太(24H)・田中慎之助(25H)・村上明日海(14H)

探究科学科 松本息吹(17H)、横山愛子(17H)

◇指導者 SS 生物部顧問 真野佳余先生 梶川綾子先生

12 月7日(土)・8日(日)、金沢市文化ホールで開催された。日本動物学会中部支部大会に、中部地方の大学等の研究機関や高校から、100 人以上が参加した。

1 日目は「能登における海洋生物学の新展開～魚類の発生工学から養殖まで～」というテーマの公開シンポジウムの後、ポスター発表が行われた。ポスター発表では探究科学科1学年の生徒2名が7月に能登臨海実習で興味を持ったニホンクモヒトデの実験を2学期以降も学校で継続して行い、その結果をまとめてポスター発表を行った。ニホンクモヒトデとは、細長い腕を持つヒトデの一種であり、今回はそ



の光に対する反応の仕方や、光を感受する部分に関して、研究したことを発表し、高い評価を得、大会委員長賞(最優秀賞)を受賞した。



2 日目には口頭発表が行われ、SS 生物部の4名が参加して、「ハゼ科魚類とテッポウエビ類の共生」と「トミヨの環境DNAの検出方法と生息調査」について発表をした。この2つの発表も大会委員長賞(最優秀賞)を受賞した。発表後、大学の先生方から指摘やアドバイスをもらい、今後実験の精度を高め、客観的な考察を行う上で大変参考になった。また、他の大学生や

高専生の研究発表も聞くことができた。生物の授業で学習した内容に係るものや、高校生の研究発表会では聞くことのできないハイレベルな研究に触れ、知的好奇心を大いに刺激された。特に静岡県の高専生による駿河湾の深海 1500m をカメラ観測する技術に関する研究は、新規性と独創性にあふれる内容で大変参考になった。



今回の大会を通じて、日進月歩で発展を続ける生物学の魅力を改めて感じた。トップレベルの研究を聴き、我々の取り組む研究をさらに深化させ、研究生物の新たな側面を見出したいと強く思った。今後は、頂いたアドバイスを参考にしたり、新たに繋がりを持った大学の先生方にご指導を仰いだりしながら研究を発展させたい。